

中学生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガイド 講師用補助資料

教材URL: <http://www.child-safenet.jp/material/>

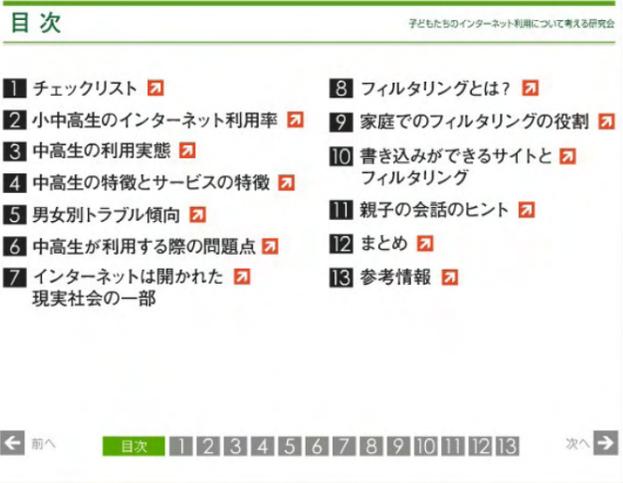
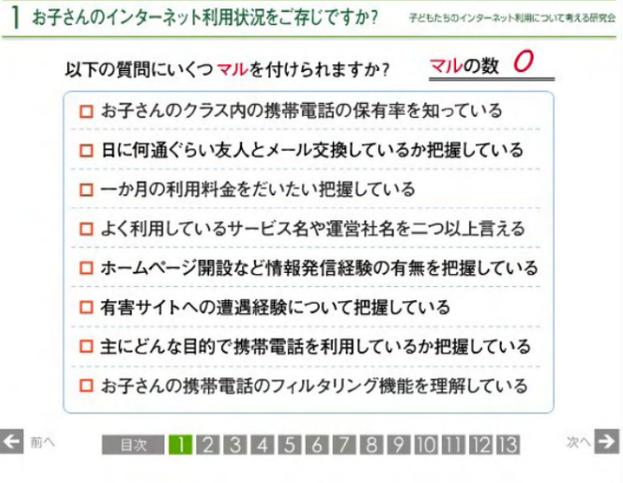
【インターネットセーフティガイドの特徴】

- ✓ 本教材は、保護者を対象とした1時間半程度の入門的な講習での利用を想定して構成されています。
- ✓ 事例やサービスの概要については、それぞれの特徴をアニメーションで視覚的に解説しています。詳細解説のアニメーション部分の説明を省略することで、必要に応じて実施時間を調整(短縮)することや、受講者の事前の理解度に合致した講習レベルへとアレンジすることも可能です。(この補助資料では、すべての解説画面の利用を前提としています。)
- ✓ 事件事故の例や個別サイトのそれぞれの特徴は、あくまでも保護者の注意を惹き、理解を促進することを目的として紹介しています。事例そのものの紹介にとらわれすぎず、根本にあるリスク回避の基本的な考え方や、子どもとの対話の重要性についてもしっかりと伝えていただくことが講習実施の際のポイントとなります。

【本教材、補助資料の使い方】

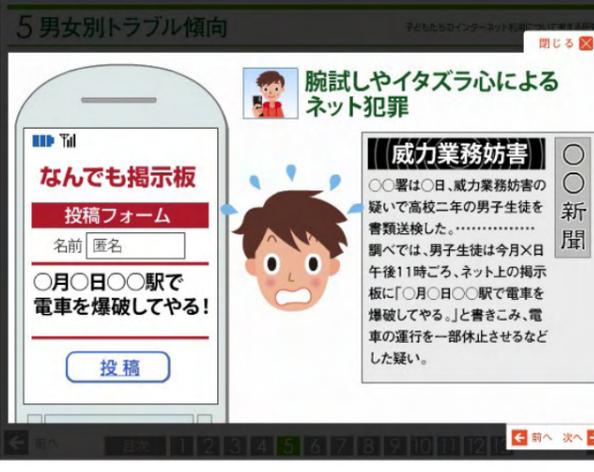
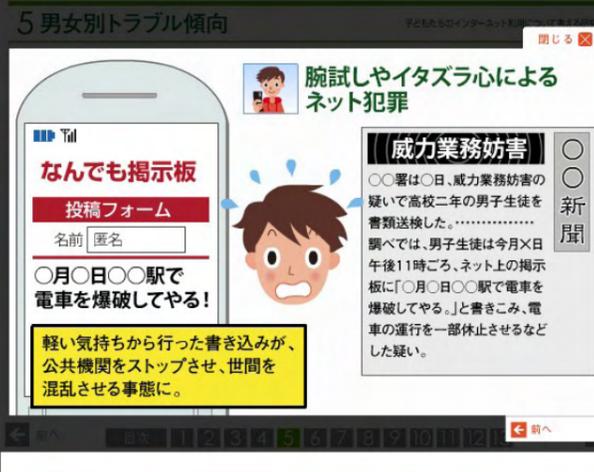
- ✓ フラッシュ教材(ダウンロード版、Web版)をご利用いただくには、Adobe Flash Player が必要です。
- ✓ ダウンロードタイプのフラッシュ教材は、Zip形式で圧縮を行っています。ご利用のパソコンに保存後、展開(解凍)してご利用ください。(ご利用のパソコン環境によっては、解凍ソフトが必要になります。フリーソフトなどをご利用ください。)
- ✓ フラッシュ教材がご利用いただけない環境下では、PDF版をご利用ください。(PDF版は、一部内容を要約しています。また、アニメーション効果は含まれておりません。)
- ✓ 教材は、右下部の **次へ**  ボタンで進めていきます。ページ内の下線リンクや、 アイコン部分をクリックすると、解説画面が起動します。
- ✓ 教材のポイント文中の「●」部分は、教材の操作に関する説明です。また、この補助資料では、1クリックで画面に展開する内容を、画面イメージの1コマとして扱っています。

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●中央の「本編に進む」をクリックし、フラッシュ教材を起動します。中央下部の「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」の文字列は、研究会公式サイトにリンクしています。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●表示が小さく見にくい場合には、ウィンドウサイズを変更してご利用ください。教材の表示サイズはウィンドウサイズにあわせて、拡大縮小することが可能です。</p>
	<p>●この教材の目次です。講習の全体像を説明する場合にご利用ください。教材下部の「目次」ボタンで、いつでもこの画面に戻ることが可能です。</p>
	<p>●質問項目をクリックすると、画面上のチェックボックスに○がつきます。「マルの数」も同時に変更されます。受講者の現状把握や、講習会の導入として、受講者に挙手などいただきながらご利用ください。</p> <p>■一般に保護者は、子どもたちのインターネット利用の実態について知っているつもりで、ポイントとなる事柄については案外知らないものです。受講者にその事実気づいてもらうためにこのページを活用することができます。その他、開催の事情に合わせて質問を加えていただくことで、効果的に講義の導入を行なうことができます。</p>

画面イメージ	教材のポイント												
<p>2 小中高生のインターネット利用率</p> <p>子どもたちのインターネット利用率について考える研究会</p> <table border="1"> <caption>子どものインターネット利用率</caption> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>パソコン</th> <th>携帯電話</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>58.3%</td> <td>27.0%</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>68.7%</td> <td>56.3%</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>74.5%</td> <td>95.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>内閣府 第5回情報化社会と青少年に関する意識調査より</p>	学年	パソコン	携帯電話	小学生	58.3%	27.0%	中学生	68.7%	56.3%	高校生	74.5%	95.5%	<p>●内閣府による「小中高生のインターネット利用率」調査結果です。ページ内にアニメーションや、リンクページはありません。</p> <p>■この統計データからは、高校生の携帯電話によるインターネット利用率の高さを読み取ることができます。全国平均で見ると、中学校から高校にかけて携帯電話とパソコンの利用率が逆転しています。但し、パソコンによるインターネット利用も少なくないことに注意してください。また、特に地域差が大きい部分なので、可能であれば講義の開催地域の実態も合わせて紹介できるとなお効果的です。</p>
学年	パソコン	携帯電話											
小学生	58.3%	27.0%											
中学生	68.7%	56.3%											
高校生	74.5%	95.5%											
<p>3 中高生の利用実態</p> <p>子どもたちのインターネット利用率について考える研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットやメールは携帯電話からの利用が多い 携帯では、メールやブログ、SNS などの閲覧・更新を行うことが多い 友だちとのやり取りは通話よりメールが多い 	<p>●中高生の利用実態を解説しています。ページ内にアニメーションや、リンクページはありません。</p> <p>■中高生の利用は、大人が暗黙の前提にしがちな「(携帯)電話＝通話」ではなく、メールやブログ、SNS の更新閲覧などインターネットの利用が主であることを再度確認します。大人は通話やメール止まりのことが多く、サイト利用は路線検索など実用的な用途が主ですが、中高生は主にお互いのコミュニケーションのツールとして、携帯電話を利用する傾向にあるようです。</p>												
<p>4 中高生の特徴とサービスの特徴</p> <p>子どもたちのインターネット利用率について考える研究会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生徒の特徴</th> <th>サービスの特徴</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>暇つぶしをしたい</td> <td>ゲーム性がある</td> </tr> <tr> <td>友だちの多さを自慢したい</td> <td>未知の友だちと交流できる</td> </tr> <tr> <td>異性への興味関心が高い</td> <td>異性と交流できる</td> </tr> <tr> <td>背伸びをして度胸を示したい</td> <td>危険な香りがする</td> </tr> <tr> <td>お金がない</td> <td>無料である、お金が稼げる</td> </tr> </tbody> </table>	生徒の特徴	サービスの特徴	暇つぶしをしたい	ゲーム性がある	友だちの多さを自慢したい	未知の友だちと交流できる	異性への興味関心が高い	異性と交流できる	背伸びをして度胸を示したい	危険な香りがする	お金がない	無料である、お金が稼げる	<p>●中高生の行動や考え方の特徴と、人気サービスの特徴を対比させています。ページ内にアニメーションや、リンクページはありません。</p> <p>■はじめに中高生がインターネットサービスに熱中する背景について解説します。ここでは中高生の「お金がほしい」「暇つぶししたい」「異性と知り合いたい」という傾向と、人気のあるサービスが備える特徴とを対比させています。自分を「オトナ」に見せたい、背伸びしたい気持ちが、時には危険なサイトや出会い系サイトを興味本位で利用させている一つの理由かもしれません。</p>
生徒の特徴	サービスの特徴												
暇つぶしをしたい	ゲーム性がある												
友だちの多さを自慢したい	未知の友だちと交流できる												
異性への興味関心が高い	異性と交流できる												
背伸びをして度胸を示したい	危険な香りがする												
お金がない	無料である、お金が稼げる												

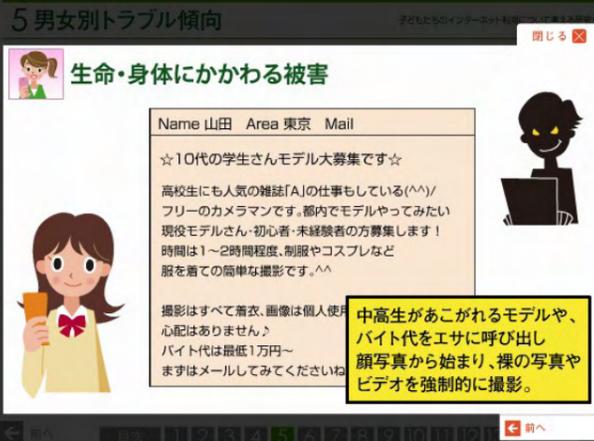
画面イメージ	教材のポイント
<p>5 男女別トラブル傾向</p> <p>子どもたちのインターネット利用率について考える研究会</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>男子生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕試しやイタズラ心によるネット犯罪 ネット上での誇示誇張発言によるトラブル サイト上での詐欺被害 </div> <div style="width: 45%;"> <p>女子生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命・身体にかかわる被害 コンサートチケットやファッショングッズに関する売買トラブル ネット上でのコミュニケーショントラブル </div> </div>	<p>●男女別に陥りやすいトラブル傾向と、その被害について解説しています。各項目に詳細解説ページへのリンクがあります。</p> <p>■同じ中高生といっても、性別によってトラブルの傾向が大きく異なることを伝えます。ここでは男女別に特に目立つトラブルの事例を紹介しています。男子の場合は、誇張した自慢やネット上の過激な発言が原因の暴力事件、女子の場合は、大人による誘引や援助交際など、生命身体にかかわる被害が目立ちます。</p>
<p>5 男女別トラブル傾向</p> <p>子どもたちのインターネット利用率について考える研究会</p>	<p>●男子生徒トラブル傾向「腕試しやイタズラ心によるネット犯罪」の解説画面です。右下の「次へ」でアニメーションを進めていきます。</p> <p>■男子生徒が巻き込まれることが多い「腕試しやイタズラ心によるネット犯罪」トラブルの実際についてアニメーションを用いて解説しています。ここで取り扱っている事例は、ネット上に電車の爆破予告の書き込みを行い、書類送検された男子高校生のケースです。1) インターネットに本当の意味での匿名性はないこと、2) たとえ中高生でも被害者ではなく加害者になりうることを保護者にも知ってもらいます。</p>
<p>5 男女別トラブル傾向</p> <p>子どもたちのインターネット利用率について考える研究会</p>	<p>●「次へ」をクリックすると、投稿内容がアニメーションで表示されます。</p> <p>■このようなイタズラ予告は、関係機関サイト掲示板への書き込みやメール送信、「2ちゃんねる」に代表される、匿名掲示板上、SNS サイトの日記上などで行われる例が多くなっています。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●「次へ」をクリックすると、掲示板への書き込みが完了します。</p>
	<p>●「次へ」をクリックすると、このイタズラによる検挙が掲載された新聞記事が登場します。</p>
	<p>●「次へ」をクリックするとまとめが登場します。この事例解説はこれで終了です。右上の「閉じる×」で男女別トラブル傾向一覧に戻ります。</p> <p>■名前もメールアドレスなどの連絡先も記載しない、一見匿名性の高いネット上の掲示板ですが、書き込みを行った場合「アクセスログ」が必ず記録されています。予告などの行為が悪質、かつ事件性がないとは言いきれないと判断された場合、警察から管理者および管理会社にアクセスログの開示要請が行われ、書き込みを行った個人を特定していくことになります。(このインターネットの追跡性については「7.インターネットは開かれた現実世界の一部」で詳しく説明しています。)</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●男子生徒トラブル傾向「ネット上での誇示誇張発言によるトラブル」の解説画面です。右下の「次へ」でアニメーションを進めていきます。</p> <p>■ここでは、インターネットの掲示板やブログなどで、普段よりも過激な発言を行ったことが引き金となった、現実世界でのトラブル事例を紹介していきます。1)インターネットは開かれている世界であり、誰が見ているかわからないこと、2)そこでの発言には常に責任が求められることを保護者にも知ってもらいます。</p>
	<p>●「次へ」をクリックすると、ブログの内容に反論するコメントが表示されます。</p> <p>■ブログの記事に、反論の内容のコメントが書き込まれました。このケースの場合、友人や学校関係者に自分のブログのURL を公開し、コミュニケーションツールとして広く利用していたため、個人が簡単に特定できたケースを想定していますが、過度に個人情報に掲載したため、内容から個人を推測できるケースも少なくありません。</p>
	<p>●「次へ」をクリックすると、誇示誇張発言によるトラブルのまとめが登場します。この事例解説はこれで終了です。右上の「閉じる×」で男女別トラブル傾向一覧に戻ります。</p> <p>■このような事例は、2008 年後半から、ニュースで何度も大きく取り上げられ、記憶に残っている方も多はずです。以前は友人間の口論、ケンカとして起こっていたトラブルが、インターネットを媒介して、知人間でも、そうでない人の間でも起きるようになってきました。子どもたちは、こうしたブログやプロフでの自分自身の書き込みの影響範囲を実際よりも狭く見積もりがちのため、保護者による適切なガイドが欠かせません。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ●男子生徒トラブル傾向「サイト上での詐欺被害」の解説画面です。右下の「次へ」でアニメーションを進めていきます。 ■男子生徒が巻き込まれることが多いトラブル「サイト上での詐欺被害」をアニメーションで解説しています。ここで取り扱っている事例は、いわゆる「ワンクリック詐欺」と呼ばれる架空請求被害です。
	<ul style="list-style-type: none"> ●右下の「次へ」、または画面内の「コチラ」リンクをクリックして次に進みます。
	<ul style="list-style-type: none"> ●こうしたワンクリック詐欺サイトにありがちなパターンとして利用者を騙すための「入会手続き」や「登録情報」が画面に表示されました。 ■ここで登録情報として表示されるものは、ウェブサイト管理者側であれば、誰でも取得できる情報です。この情報だけでは個人を特定することはできません。個人を特定するためには、警察などが捜査令状などの正規の手続きを踏んで、プロバイダなどの業者が持つ、詳細なログと照合する必要がありますので、ただアクセスしただけで悪質業者に個人情報を知られることはありません。

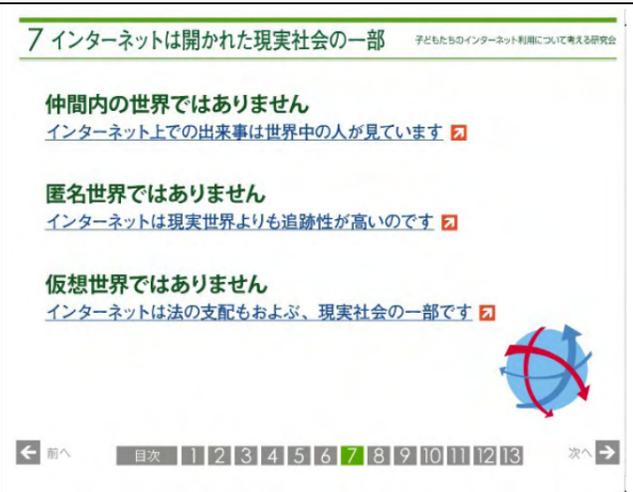
画面イメージ	教材のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ●「次へ」をクリックすると「サイト上での詐欺被害」に関するまとめが登場します。この事例解説はこれで終了です。 ■根拠が無く不当な請求にも関わらず、自分のことが知られていると思い込み、また、こうしたサイトにアクセスしたこと自体を家族に知られることを恐れて、請求された金額をバイト代で支払ってしまうなど、一人で悩む児童・生徒が増加しています。また、何とか解決(取り消し)をしようと、サイト上に表示される連絡先に電話をかける、メールを送るなどは、悪質業者に本当に個人情報を知られることにもつながります。トラブルにあったときにはまず保護者に相談し、消費者センターなどのアドバイスを受けて正しい対処をすることが必要です。
	<ul style="list-style-type: none"> ●ここからは、女子生徒のトラブル事例です。「生命・身体にかかわる被害」では、女子生徒のあこがれである「モデル募集」に潜む危険について解説しています。右下の「次へ」でアニメーションを進めていきます。 ■大人から見ると、一目で「怪しい」と思うモデル募集掲示板ですが、安全であることを装う巧みな誘い文句にのせられて、女子中高生が実際に被害にあう例が後を絶ちません。ここでは、1)インターネット上では、掲載されている情報の真偽の判断が実生活よりも難しいこと、2)いったん撮られてしまった写真や知られてしまった個人情報は、インターネット上では完全な回収ができず、将来にわたって本人が一番傷つく結果になることを保護者に知ってもらいます。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「次へ」をクリックすると、モデル募集掲示板の書き込み内容が表示されます。 ■掲示板には、実際に中高生に人気のファッション雑誌名や、着衣であること、個人使用で流出の心配がないことなど、安心させるために書かれた内容が記載されています。(ここで提示している文面は、実際にインターネット上にあるモデル掲示板に掲載されているものを参考にしています。)

画面イメージ	教材のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ●「次へ」をクリックすると、生命身体にかかわる被害のまとめが登場します。この事例解説はこれで終了です。 ■募集の時点では写真の流出はないと安心させていますが、撮影した顔写真や聞き出した個人情報などをネタに、さらに露出度の高い写真や裸の写真、ビデオの撮影を強要されたという被害事例が多く報告されています。またこうした偽のモデル募集に限らず、撮影された画像や動画がいったんネット上に流出した場合、すべてを削除、回収することは現実には不可能であり、その意味では被害が一生続いてしまうという怖さは、改めて強調しておく必要があるでしょう。
	<ul style="list-style-type: none"> ●女子生徒のトラブル傾向「コンサートチケットやファッショングッズに関する売買トラブル」の解説画面です。右下の「次へ」でアニメーションを進めていきます。 ■人気タレントのファンが集まる掲示板では、情報交換やチケットの交換などが、実際に活発に行われています。ここで紹介するのは、ファン掲示板を利用したコンサートチケットの売買詐欺事例です。ここではインターネット上での物品や情報の取引を無防備に行なった場合には、実生活以上の不確実性が存在することを保護者にも知ってもらいます。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「次へ」をクリックすると、チケットを購入したいファンが代金を振り込んだようすがアニメーションで表示されます。 ■お小遣いほしさに、チケットを譲る書き込みを掲示板に行い、代金を先払いで振り込ませています。もちろん実際にチケットは持っていないため、振り込んだファンの手元にはチケットが届くことはありません。

画面イメージ	教材のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ●「次へ」をクリックすると、「コンサートチケットやファッショングッズに関する売買トラブル」のまとめが表示されます。この事例解説はこれで終了です。 ■実際に起こった事件では、詐欺を行った高校生はチケットを1枚も持っていないにもかかわらず数名のファンから、数万円の代金を騙し取っていました。
	<ul style="list-style-type: none"> ●女子生徒トラブル傾向「コミュニケーショントラブル」の詳細解説の解説画面です。右下の「次へ」でアニメーションを進めていきます。 ■女子生徒の場合には、特にコミュニケーション目的でのインターネット利用が盛んです。ここでは携帯メールの遅延が、いじめにつながるケースを紹介しています。地域や年齢によって差はありますが、中高生の間では、数分以内など、きわめて短時間でメール返信が暗黙のルールとなっていて「返信の遅延＝友人関係の希薄さ」をあらわす指標になることがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「次へ」をクリックすると、メールのやりとりがアニメーションで表示されます。

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●「次へ」をクリックすると、「コミュニケーショントラブル」のまとめが表示されます。この事例解説はこれで終了です。</p> <p>■こうした「短時間での返信」を強いられる緊張感が、やがて依存的な精神状態につながり、食事中や就寝時にも携帯電話を手放せないお子さんが増えています。就寝時には自室に持ち込ませず、友人にもそのことを知らせるなど、利用ルールについて親子で話しあってみましょう。</p>
	<p>●「中高生が利用する際の問題点」を解説しています。4つの分野に分けて主な被害、サービスとその問題点を列記しています。中でも、中高生の利用トラブルが注目されている「プロフィール(プロフ)」「ゲーム・アバター」「学校裏サイト」については、それぞれのサービス名から、概要や問題点をまとめた解説画面を起動します。</p> <p>■ここに提示している問題点は、緊急性・危険性がより高いと思われるものを上から順番に列記しています。マスコミ報道などでは「ネット関連のトラブル」と一言でまとめられてしまうことで、よりリスクが大きく深刻なものへの対策や議論が不十分になりがちなことには、保護者でも注意が必要です。</p>
	<p>●「プロフィールサイト」の概要画面です。右下の「次へ」でサービスイメージを展開します。</p> <p>■プロフィールサイト(プロフ)の問題点としては、不用意な個人情報の公開や、サイトに付属している掲示板やメール機能による利用者間交流によるトラブルが挙げられます。プロフィールの人気度を訪問者数であらわすランキングを競うために、露出の高い写真を自ら掲載したりするケースも見られます。顔写真など、掲載した画像をわいせつな雑誌などに転用されてしまうという被害も発生しています。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●「プロフィールサイト」についている掲示板機能の解説画面です。</p> <p>■多くのプロフサイトに備わっているゲストブック機能とは、プロフィールを閲覧した人が自由に書き込むことができる自己紹介掲示板のことです。ここに書き込まれた見知らぬ人からのメッセージをきっかけに、利用者間のコミュニケーションが行われています。また出会い系など不適切なサイトへのリンクが書き込まれることもあります。</p>
	<p>●「ゲーム・アバターサイト」の概要画面です。右下の「次へ」でサービスイメージを展開します。</p> <p>■多くの会員登録制交流(SNS:ソーシャルネットワークサービス)サイトでは、ゲームや携帯小説、本人の似顔絵をイラストにした着せ替えサービス「アバター」などが無料で楽しめます。中高生以上の半数以上が利用したことがあり、サイト内メール機能で会員同士での直接連絡も可能です。昼夜を問わず利用し続けるなど「はまる」子どもも多く、子どもを夢中にさせる中毒性も懸念されています。中高生に人気の大手サイトでも、サイト上で知り合った悪意のある大人による誘拐や、殺人事件などの出会いの場として利用された例が報じられています。</p>
	<p>●「ゲーム・アバター(会員制交流)サイト」に付属している掲示板機能の解説画面です。</p> <p>■交流サイト内に作ることができる、自分専用のページです。ここに表示させる自分の分身となる画像がアバターです。イメージにも記載されているように、メールや日記、写真のアップロード機能なども提供されます。大人の目からは無料ゲームが目玉の「普通の」サイトに見えても、こうした会員同士の交流を促進する仕組みが多数提供されているため、オンラインでのコミュニケーションスキルや身を守る力が習得できていない子どもの利用には一定程度のリスクがあることを、保護者も知っている必要があります。</p>

画面イメージ	教材のポイント
 <p>6 中高生が利用する際の問題点</p> <p>学校裏サイト</p> <p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達で作る簡単なサイト (匿名掲示板を利用している場合が多い) 同じ学校の卒業生と在校生、クラスの仲間などの意見交換に利用されている <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間内で意見交換するうちに、特定の生徒の中傷に発展しやすい 閲覧にパスワードが必要な場合が多く、状況を把握できない 	<p>●いわゆる「学校裏サイト」の概要画面です。右下の「次へ」でサービスイメージを展開します。</p> <p>■サイトというのでホームページをイメージする方が多いと思いますが、いわゆる「学校裏サイト」のほとんどが、掲示板システムになっています。多くは、同窓生や現役の生徒と卒業生の交流、部活のメンバーでの情報交換などに、健全な目的で活用されており、本来は「裏」サイトという雰囲気ではありません。しかし、管理水準が低く、書込み発言が誹謗中傷に発展するケースが少なくない他、閲覧にパスワードが必要な閉鎖的な運営も多く、保護者の見守りやトラブル時の適切な対処は難しくなっています。</p>
 <p>6 中高生が利用する際の問題点</p> <p>第一高の生徒集まれ!</p> <p>3. 【担任統悪】2年生の掲示板</p> <ol style="list-style-type: none"> 名前: 名無しさん 今日生徒総会あんの? 名前: 名無しさん 今日まぢワロタw 名前: 名無しさん まぢO田うざくない? 名前: 名無しさん 学校めんどい 名前: 名無しさん O君きもい 名前: 名無しさん 明日からシンド決定 (「日」>O田 名前: 名無しさん 家でキモイのはO田より 名前: 名無しさん Kってやつがキモイワロス 名前: 名無しさん うざすぎたねー 名前: 名無しさん O田氏ね 	<p>●「学校裏サイト」上の掲示板機能の解説画面です。右下の「次へ」でサービスイメージを展開します。</p> <p>■学校裏サイトと呼ばれる掲示板の内部のイメージです。上部にある見出しは「スレッド(略して「スレ」)」と呼ばれる、掲示板内のテーマ(掲示板の基本的なひとまとまり)です。たわいもない会話から特定の人物の誹謗中傷に発展しています。アルファベットや記号を組み合わせ、伏せ字にはなっていますが、見る人が見れば個人を特定できる表現になっています。</p>
 <p>7 インターネットは開かれた現実社会の一部</p> <p>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</p> <p>仲間内の世界ではありません インターネット上での出来事は世界中の人が見ています</p> <p>匿名世界ではありません インターネットは現実世界よりも追跡性が高いのです</p> <p>仮想世界ではありません インターネットは法の支配もおよぶ、現実社会の一部です</p>	<p>●インターネットの世界の現実について、よくある誤解を例に解説しています。それぞれの項目のリンクをクリックすると、各解説ページに移動します。</p> <p>■ここまでの事例からも導き出せる、インターネットという世界の根本的な原則のポイントについて、特に誤解しがちな3つの点を挙げて受講者の先入観の誤りを再確認しておきます。中高生に限らず、大人についてこのインターネットの基本に関する誤解が、様々なトラブルの最大の原因であるといっても過言ではありません。</p>

画面イメージ	教材のポイント
 <p>7 インターネットは開かれた現実社会の一部</p> <p>従来型コミュニケーション媒体</p> <p>Profil Card</p> <p>なまえ: みか 住所: 東京都 Tel: 0123456789 長所: ★ポジティブ 趣味: 人間観察</p> <p>メッセージ みんな、よろしく〜!</p> <p>紙のサイン帳やプロフィールカード</p>	<p>●「従来型のコミュニケーション媒体」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。</p> <p>■ここでは「従来型コミュニケーション媒体」の例として、かつて同級生など友だち同士で交換されていた、紙のプロフィールカードやサイン帳を引き合いに、インターネットと実生活の差を確認していきます。</p>
 <p>7 インターネットは開かれた現実社会の一部</p> <p>従来型コミュニケーション媒体 現在のコミュニケーション媒体</p> <p>Profil Card</p> <p>なまえ: みか 住所: 東京都 Tel: 0123456789 長所: ★ポジティブ 趣味: 人間観察</p> <p>メッセージ みんな、よろしく〜!</p> <p>紙のサイン帳やプロフィールカード</p> <p>「相手の顔が見える」「手渡しで広がる」</p>	<p>●「従来型コミュニケーション媒体」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。</p> <p>■(紙を用いた)従来型のコミュニケーションは、あくまでも知っている友だち同士間で、手渡しで行われていました。自分が書いたものが外部に広まるスピードは遅く、内容をコピーするとそのたびに劣化していきます。従ってその到達範囲は狭く、実質的には保管可能な期限も限られています。</p>
 <p>7 インターネットは開かれた現実社会の一部</p> <p>現在のコミュニケーション媒体 インターネット上のプロフィールサイト</p> <p>アップロード</p>	<p>●「現在のコミュニケーション媒体」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。</p> <p>■インターネットを利用したコミュニケーションが、よく利用される理由としては、手軽に見栄えのいいプロフィールサイトを作成でき、メールなどで友だちに簡単にそのページの URL を伝えることができる点があげられます。このアニメーションスライドでは、自分の画像を携帯電話を用いて、サイトにアップロードしている様子を表しています。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ●「現在のコミュニケーション媒体」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。 ■このアニメーションスライドでは、完成した自分のプロフィールページ(プロフ)のURLを、友人にメールで送信している様子を表しています。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「現在のコミュニケーション媒体」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。 ■パスワードなどによる閲覧制限を設けていない場合、インターネットにアクセス可能な人であれば誰でもそのプロフィールページを見ることが可能です。またデジタルデータとして公開した内容は、その伝播速度が非常に速く、コピーしても劣化しないことから、保管期限は半永久的です。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「現在のコミュニケーション媒体」のまとめです。右上の「閉じる」でインターネットの問題点の一覧に戻ります。 ■まとめとして、プロフィールサイト(プロフ)を利用することが問題なのではなく、「インターネットの世界＝全世界中に公開」されるものだという認識の上で利用できていないことが一番の問題点なのです。インターネットでのデジタルコミュニケーションは紙を使ったものとは大きく異なることを意識して、たとえ知らない人に広まっても差し支えの無い内容に限った発信とすべきことを、保護者も理解する必要があります。

画面イメージ	教材のポイント
	<ul style="list-style-type: none"> ●「インターネットの仕組み」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。 ■相手の姿が見えず、匿名性が高いと思われるインターネットの世界ですが、アクセスログと呼ばれる利用者情報が一定期間記録されているため、むしろ現実世界よりも「悪事はバレやすい」のです。しかし子どもに限らず「インターネットでは個人が特定できない」という誤解が、様々なトラブルの素地を作っていることに、保護者も気づく必要があります。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「インターネットの仕組み」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。 ■ここからは、実際にアクセスログを元に警察の捜査が行われるプロセスを、簡単なアニメーションで解説していきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ●「インターネットの仕組み」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックして、アニメーションを先に進めます。 ■事件発生の通報を受けた警察は、必要があると判断を行った場合、捜査令状などの正規の手続きを経て、そのサイトの管理者やサービスプロバイダに、アクセスログなど発信者情報の開示を請求します。そのログを解析することにより、発信元のコンピュータや携帯電話端末を特定していきます。

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●「インターネットの仕組み」の解説ページです。右下の「次へ」をクリックしてアニメーションを先に進めます。</p> <p>■発信者を特定した警察の捜査(追跡性)をアニメーションで表現しています。このようなプロセスを経て、爆破などの犯行予告や、ひぼう中傷書き込み、不正アクセスなどを検挙するだけでなく、時には自殺予告の書き込みに対する対応などで、事件や犯罪を未然に防ぐこともあります。</p>
	<p>●「基本的な対策」の解説ページです。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■お子さんを守るために必要な、3つの対策を提示します。1つ目は、お子さんの興味・関心を把握し、万が一トラブルに巻き込まれたときにはすぐ相談できる関係を維持するための、基本的な「コミュニケーション(会話)」です。2つ目は、お子さんの変化に気づき、適切なアドバイスや制限を行なうための、保護者による見守り(チェック機能)の意識づけ。3つ目は保護者のチェックを、仕組みとして支援するフィルタリングなどの「技術的な手当て」です。これらはどれか一つでも欠けていると、最終的には子どもを守ることはできません。</p>
	<p>●「8 フィルタリングとは?」ではフィルタリングの特徴や仕組みについて説明しています。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みますが、フィルタリングの仕組みについては、右下の「フィルタリングの仕組み」から見るすることができます。</p> <p>■インターネットでは多種多様な情報が発信されているだけでなく、放送や出版とは異なり、その伝達経路上での規制が極めて小さいのが特徴です。そこで、何らかの懸念がある情報への接触については、受け手側で意識的に回避する必要があります。フィルタリングは元々、その選択的な受信を支援する技術として存在しています。</p>

画面イメージ	教材のポイント
	<p>●「フィルタリングの仕組み」の解説ページです。右上の「閉じる」で前のページに戻ります。</p> <p>■多くのフィルタリングシステムでは、様々なサイトを主な懸念事項ごとに分類したリストを利用しています。リストは専門企業が作成して、毎日最新の状態に更新し続けています。保護者は、用意された分類項目の中から、その家庭として不要と考えるものをルールとして指示しておきます。子どもがそのルールに該当するサイトへアクセスしようとする、フィルタリングシステムが自動的に閲覧を制限します。</p>
	<p>●「9 家庭でのフィルタリングの役割」の解説ページです。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■フィルタリングはあくまでも保護者の見守り(チェック)を支援・代行するツールであり、そもそもどのような条件でお子さんにインターネットを利用させるかについては保護者が検討設定する必要があります。また、いずれはフィルタリングに頼らず、インターネット上の情報の真贋やサイトの信頼性を自分自身で判断できるようになる必要がありますので、そうした能力を育てる機会も必要です。</p>
	<p>●「10 書き込みができるサイトとフィルタリング」の解説ページです。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■ここではフィルタリングでは防ぐことができない「書き込み(情報発信)」について解説しています。フィルタリングはサイトから発信されている情報についての判断を支援するための仕組みとして提供されています。掲示板や交流サイトなど発信利用型サイトへの接続をいったん許可した場合、子どもたちがどのような書き込み(発信)をするのかを制御する機能は備わっていません。フィルタリングだけに頼らず、子ども自身が賢く安全に発信できるようになるための教育が必要とされる理由です。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>11 親子の会話のヒント <small>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ご家庭によって子どもとの関係には差異がありますので、一律的な対策は存在しません。 ■ まずは、自分が興味をもっていることをお子さんにはっきりと伝え、この話題で会話することを心がけましょう。お子さんも聞いてほしいのかもしれない。 ■ 唐突に、悪いことをしていないか詮索したり、利用を禁止したりしては、子どもは隠れて利用するようになってしまいますので、避けましょう。  <p>← 前へ 目次 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 次へ →</p>	<p>●「11 親子の会話のヒント(1/3)」の解説ページです。右下の「次へ」で先に進みます。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■お子さんとインターネットの利用についてお話をする際の会話のヒントのご提案です。ご家庭によってお子さんの利用状況や捉え方が異なるため「こうするべき」という正解はありません。しかし、日ごろから「子どもを気にかけている」という姿勢を示していくことは必要です。</p>
<p>11 親子の会話のヒント <small>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会話の過程で、普段お子さんが利用しているサイトを少しずつ把握・理解していきましょう。 実際に利用しているサービスについて尋ねてください。可能であれば、操作しているところと一緒に見せてもらいましょう。隠そうとするなど、申し出に対するお子さんの反応に注意しましょう。 ■ ある程度お子さんとの会話が弾んできたら、やり取りの相手を教えてもらいましょう。 誰とどんなやりとりがあるのか同様に尋ね、可能であれば、内容も見せてもらいましょう。その際には、顔を知らない相手とのやり取りがあるかどうかを中心に確認してください。  <p>← 前へ 目次 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 次へ →</p>	<p>●「11 親子の会話のヒント(2/3)」の解説ページです。右下の「次へ」で先に進みます。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■お子さんがどのようなサービスを、どのように活用しているのか理解するために、まず保護者のみなさんがそのサービスを理解することをお勧めします。お子さんに使い方などを教わりながらも、まずは「現実を知る」ことから始めることが、一見すると遠回りのようでも一番効果的かつ早道でしょう。</p>
<p>11 親子の会話のヒント <small>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インターネットの先には人がいること意識付けさせてください インターネットも現実世界であることを気づかせてあげてください。何でも許される仮想世界ではありません。 ■ インターネットは追跡性が高い事を教えてください インターネットは決して匿名性の高い場所ではありません。むしろ追跡性は高いものです。「違法なことを行うと確実に捕まる」という事実を教えてください。 ■ 問題が起きたらすぐに自分に相談するよう伝えてください 叱られることを必要以上に恐れるあまり、すぐに相談できず、事態が深刻化してから保護者が気付くといったパターンに陥りがちです。日頃から相談しやすい関係を構築しておきましょう。  <p>← 前へ 目次 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 次へ →</p>	<p>●「11 親子の会話のヒント(3/3)」の解説ページです。右下の「次へ」で先に進みます。このページにはアニメーションはありません。</p> <p>■「親子の会話のヒント」のまとめとして、保護者のみなさんに必ずお子さんに伝えていただきたい3つの項目を提示しています。お子さんを加害者にも被害者にもしないために、インターネットは現実世界の一部であり、匿名世界でも無法地帯でもないことや、配慮の無い発言や書込みによって相手はひどく傷つくことなどをしっかり教えた上で、困ったときには一人で悩まずすぐに保護者に相談するように伝えましょう。</p>

画面イメージ	教材のポイント
<p>11 よりスムーズに会話をするために(参考) <small>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロフィールサイトに登録してみましょう お子さんが利用しているプロフィールサイトに、教わりながら参加してみましょう。まずは教えるというよりも、自分も楽しむつもりで登録してください。 ■ 1週間使ってみましょう 移動中や家事の合間など、手が空いたときに少しずつでもいいので、まずはのぞいてみてください。実際に使ってみると、安全な使い方についてリアリティをもってお子さんと話せるはずですよ。 ■ 話し合ってみましょう ご自身で使ってみての感想を交え、お子さんが個人情報を入力していないかなど、お子さんのプロフィールや利用中に気になったページを題材に話してみてください。 <p>← 前へ 目次 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 次へ →</p>	<p>●「親子の会話のヒント」の参考情報ページです。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■「11 親子の会話のヒント(2/3)」でも触れましたが、保護者が「知る」ためのポイントやお子さんへのアプローチの一例を紹介しています。大人の常識で「怖いな」と思う箇所がきっと見つかるはずです。</p>
<p>12 保護者にしかできないことがあります <small>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</small></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学校の先生には、利用料金や利用しているサービスなど、インターネットの利用状況について確認することはできません。監護権のある保護者しかできないのです。 ■ もしお子さんが、何か問題に巻き込まれたとき、無条件に味方でいてあげられるのは保護者をおいていません。 ■ いろいろな人や物事とかかわりながら、子どもは成長していきます。インターネットを生きた教材ととらえ、その利用を通して人や社会との関わり方について学ぶことが重要です。  <p>← 前へ 目次 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 次へ →</p>	<p>●本教材のまとめ「12 保護者にしかできないことがあります」のページです。このページにはアニメーションはありません。「次へ」で次のページに進みます。</p> <p>■お子さんのインターネット利用については、学校現場でも情報モラル教育の取り組みが始まっていますが、携帯電話やパソコンを買い与える保護者にしかできない事項もあります。利用料金や利用状況の把握もその1つです。一番近くにいる保護者が、なにがあろうと無条件に味方でいること、社会経験の豊富な先輩として、その一部であるインターネットの世界と上手に付き合う方法を教え、支援していくことが重要です。</p>
<p>13 情報提供・交流サイト <small>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</small></p> <p>子どもたちのインターネット利用について考える研究会 公式サイト http://www.child-safenet.jp</p>  <p>← 前へ 目次 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 次へ →</p>	<p>●「13 情報提供・交流サイト」の紹介ページです。本教材の最終ページです。前に戻るには、目次やページ番号をご利用ください。</p> <p>■このモデル教材を作成した、子どもたちのインターネット利用について考える研究会のウェブサイトの URL です。または「子どもネット研」と検索するとサイトが見つかります。教材の最新版や、関連情報などを提供しています。</p>